

平成28年度第4回博物館協議会会議録

(平成29年3月27日作成)

1 開催日時

平成29年2月10日（金曜日） 午後2時00分～午後3時30分

2 開催場所

船橋市飛ノ台史跡公園博物館

3 出席者

(1) 委員 岡崎委員 日塔委員 木原委員 中田委員 佐藤委員 高橋委員

(2) 事務局 小川郷土資料館長 井上飛ノ台史跡公園博物館長

栗原郷土資料館長補佐 菅野郷土資料館副主査

(3) オブザーバー 道上文化課長補佐

4 欠席者

なし

5 議題及び公開・非公開の別並びに非公開の場合にあっては、その理由

1. 事業報告（平成28年10月14日から平成29年2月9日まで）

2. 事業計画（平成29年2月10日から平成29年3月31日まで）

3. 平成29年度博物館協議会開催日程について

4. その他

郷土資料館のリニューアルについて

6 傍聴者数

0名

7 決定事項

1. 事業報告（平成28年10月14日から平成29年2月9日まで）は、了承されました。

2. 事業計画（平成29年2月10日から平成29年3月31日まで）は、了承されました。

3. 平成29年度博物館協議会開催日程は、了承されました。

8 議事

○ 郷土資料館長補佐

定刻となりましたので、平成28年度第4回船橋市博物館協議会を始めさせていただきます。議事に入る前に、昨年11月11日に、平成28年11月1日より平成30年10月31日までの間、博物館協議会委員を務めていただく皆様に、委嘱状を交付いたしました。日塔副会長、佐藤委員の2名が欠席されておりました。本日、小川郷土資料館長より、委嘱状を交付させていただきます。日塔副会長、佐藤委員、自席でお立ちください。

…委嘱状交付、出席者自己紹介（略）…

○ 郷土資料館長補佐

本日、傍聴人はおりません。ただいまより、議事に入らせていただきます。本日の協議会出席者は6名でございます。委員の半数以上がご出席しておりますので、船橋市博物館条例施行規則第8条第2項の規定により、本協議会は成立しておりますことを、ご報告申し上げます。なお、船橋市博物館条例施行規則第9条第1項の規定により、議事は会長が行うこととなっておりますが、本日は、岡崎委員の都合により、日塔副会長にお願いいたします。それでは、日塔副会長、進行よろしくお願いいたします。

○ 日塔議長

それでは、お手元に協議会次第がございますので、それに従って、4つの議題をやらせていただきます。早速入らせていただきたいのですが、議題1の平成28年10月14日から平成29年2月9日までの郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館事業報告について、お願いしたいと思います。まず、郷土資料館の方からお願いいたします。

○ 郷土資料館長

郷土資料館は、引き続き休館中ということでございまして、この事業報告、この次の事業計画ともに、簡単な説明になってしまいますが、ご理解いただきたいと思います。休館中の展示事業といたしましては、SLの野外展示、それから西部公民館での下総中山のジオラマの展示でございます。また、今日、こちらの博物館に入った時に、皆様の目に入ったかと思いますが、「くらしの道具—道具が語るくらしの歴史—」展を、こちらを会場として開催させていただいています。小学校3年生のカリキュラムに合わせて開催をしているので、多くの方にご覧いただいております。展示の内容としては、ダイヤル式の電話等、実際に触っていただけるものというのを並べてございまして、そのことが、概ね好評な意見をいただいているところでございます。

私どもとすると、ダイヤル式の電話が、子どもたちがどうやって使うのかわからないというのが、驚きというか、「えっ？」という感じでしたが、結構ダイヤル式の電話というのが人気といいますか、注目を集めています。

その他、教育普及活動としましては、10月15日に、「船橋の歴史散歩」、10回目になりましたけれど、今回は、「習志野原の跡を歩く」ということで、17名の参加者がおられ

ました。11月5日には、「船橋を歩いた文人たちー江戸から明治の旅と学びー」と題しまして、文化講演会を行い、65名の参加をいただきました。この講師を務めたのは、先程紹介しました小田でございます。小田の船橋の研究を発表したものになりますけれども、日本近世史を専攻する学芸員が配属されたことによる講演となりました。今後も、郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館の学芸員による発表の場というのを、積極的に持っていきたいと考えております。

その他、活動は、資料の通りでございます。郷土資料館からは、以上でございます。

○ 飛ノ台史跡公園博物館長

次に、飛ノ台史跡公園博物館の報告をさせていただきます。

まず、展示事業についてです。2階・3階の常設展示につきましては、従来通りの展示をさせていただいております。(2)の華道連盟協力の生け花展示も行っております。この中で、「古流」という流派が、海神中学校の華道部で指導をしている関係で、12月の生け花の作品展示を海神中学校の生徒が行いました。中学生らしい展示を行ってございまして、大変楽しく見させていただきました。

次に企画展に移らせていただきます。11月1日から12月28日まで、48日間にわたり、「船橋の遺跡 ～里帰りした資料(モノ)たち～」を開催させていただきました。この期間の入館者は、1,273名となっております。学芸員によるギャラリートークを行い、合計105名にご参加いただきました。「くらしの道具」展につきましては、小川館長から説明があったとおりです。

次に教育普及事業に移らせていただきます。ワークショップ事業につきましては、土日祝日、冬休み期間に実施し、10月から1月にかけて合計43回、幼児から大人まで、788名のご参加がありました。

次に「縄文大学」に移らせていただきます。こちらは、企画展「船橋の遺跡」に関連したテーマを設けて、10月7日から10月28日の各金曜日、4回開催し、合計289名にご参加いただきました。

次に考古学講座に移らせていただきます。1月14日から1月28日の各土曜日、3回にわたり開催し、取掛西貝塚の最新情報など、3回の参加者合計が193名となっております。

4番目といたしまして、「あるいてみる飛ノ台周辺の遺跡・史跡マップ」を作成いたしました。マップにつきましては、平成29年2月1日より、当館と海神公民館で配布を開始し、現在も配布させていただいております。関連事業として、このマップの各コースを当館職員が説明しながら歩く企画を当館と海神公民館の共催事業として、2月5日と8日に実施し、各回22名の参加がございました。海神公民館と共催にしたことで、募集人数を増やすことができました。残りの4コースも来年度以降、海神公民館と共催で実施する予定です。

5番目に「バスで訪ねる遺跡・博物館見学」を説明させていただきます。こちらは、11月12日に山梨県笛吹市にある釈迦堂遺跡博物館へ参りました。参加者は39名でございました。

次に「博学連携事業」に移らせていただきます。

(1)といたしまして、移動博物館です。11月12日・13日に総合教育センターの教育フェスティバルで実施いたしました。こちらは、立ち寄っていただいたのが710名、ワークショップ体験をしていただいたのが391名、合計1,101名となっております。チラシを独自に作って配ったところ、飛ノ台史跡公園博物館のことは知らなくても、「縄文時代」という言葉はご存知で、それに惹かれて立ち寄ってくれたご家族もいらっしゃいました。今後もチラシを工夫して、効果的な広報活動をしていきたいと考えております。

その他、12月26日に大穴小学校で、「縄文土器にふれよう」という連携事業を行いました。児童と保護者22名に、博物館の案内や縄文土器についての説明を行い、実際に土器に触れてもらいました。

(2)として、海神中学校との美術科連携事業に移らせていただきます。海神中学校美術科と当館との連携事業で、6回目を迎えます。中学1・2年生は、博物館において土器のスケッチ等をすでに行っておりますが、中学3年生が縄文土器片を使って拓本を採りました。

(3)といたしまして、「職場体験」についてです。これは中学校2年生が団体や企業、お店などで、実際に現場で働く体験をするもので、今年は12校43名受入れを行いました。内訳につきましては、資料のとおりです。

入場者数等の利用状況は、資料のとおりです。「くらしの道具」展については、郷土資料館の方で、チラシの配布を行っていただき、たくさんのお客様に来ていただいております。こちらといたしましては、大変ありがたく思っております。そういったこともあり、入場者数が普段よりも増えているのかな、と考えております。

その他といたしまして、3階に展示しております小室上台遺跡出土のバイオリン形土偶の写真データを山川出版社に貸し出しております。こちらにつきましては、今月25日に出版予定の『土偶のリアル』に掲載されます。譽田亜紀子さんが執筆され、最近「土偶女子」ということがブームとなっておりますが、譽田さんはその言葉を作った方です。別の著作の方でも使っていただけるということなので、ありがたいことだと思っております。

その他、企画展「船橋の遺跡」展で借用した遺物等の返却を行っております。

団体利用としては、市の関係の市民大学校ですとか、保健所保健予防課、国際交流室、その他にも町会等の見学がございました。

最後となりましたが、博物館のエントランス外構の工事を11月1日から平成29年1月31日まで行いました。また通報・避難・AED訓練を、郷土資料館の職員とともに、1月27日に行いました。以上でございます。

○ 日塔議長

ありがとうございました。ただいま、2つの施設から、ご説明いただきました。10月から2月までですので、4か月間になる訳ですけども、いつもよりも月数が多いと言いますか。委員の皆様でご質問等ございましたら、お願いいたします。

○ 郷土資料館長補佐

郷土資料館の展示事業の(4)「くらしの道具」展の観覧者数なのですが、私の誤りで

資料に抜けておりました、観覧者数は、昨日2月9日までで1,802名となります。申し訳ございませんでした。

○ 木原委員

今の「くらしの道具」展の展示を、今、1階のギャラリーで来る前に拝観させてもらいました。郷土資料館が休館する前からやっている内容ですが、見ていて、やっぱり伝え手の知識というか経験というのが、どんどんどんどん薄れていくな、と思いました。結構、展示の内容的なものとは説明とがバラバラで、ここではもうちょっとこれを出した方が良いじゃないか、と思う物が無かったり。例えば、細かいことで申し訳ありませんが、食膳の展示があると、ご飯とお椀が上下になっていて、せめてそれだったら、箸があつてご飯があつたら汁椀は横へ行くとか、徳利があつてそこにあつた小皿は、御猪口なのか醤油皿なのかわからない。そういう展示というのは、全くバラバラで、普通で見たら、昔の人の暮らしの食器ってこんなのだ、で済んでしましますが、基本的に日本人の生活の中に、ご飯と汁椀の位置と箸の位置、そういったものの決まりがある。そういうものを最低限は出すべきだと思うし、全部の、お膳の、下手したら箱膳のものを揃えろというのではなくても、最低限、化粧皿とか大皿までいかないけれど、そういったものを揃えるとか。普通の生活の物なのか、客用なのか。要するに、汁椀に蓋が付いているということは客用だけれども、そうかということ、他の物にそれらしきものは無くて、じゃあ普通の生活に箸置きは付けて生活しているかということ、そういうものではない。だから、見ていてすごくアンバランスで、どんなレヴェルの展示かがわからない。そういったのが、例えば、ざるの箕があつて、隣に唐箕があるけれど、こちらの説明はあるけれど唐箕の説明は全然なされていないとか、たらいと洗濯板があつても、それについての説明がない。子供たちが勉強に来てよくわからない。お年寄りから、「これってこうじゃないの」という問い合わせは無いですか。錬炭を出す前に、ちゃんと炭を置いてほしいとか。ある物を出せば良いのか。何を伝えたかったのかがわからなかったですね。だから、そういうところがどうなのかな、っていうのが、すごく、今見ていて感じたことですね。何か細かすぎるかも知れませんが、でも、最低限の基本は、こういうところが先頭に立って出すべきだと思うので、その辺の考慮を、もう少しお願いしたいと思いました。以上です。とりあえず。

○ 日塔議長

私もちょっと見てきましたが、私は、そういった細かいところは、あまり気が付かなかったのですが、手で触れるというのは非常に良いことだと思いますよね。あれは良かったなと思いますけれど、今、木原委員の方から、もうちょっと細かい配慮をした、専門的な方がいらっしゃらないと、昔の生活をご存知の方でないと、細かいところまでは、なかなか目が届かないと思いますけれど。

○ 郷土資料館長

ご指摘ありがとうございます。私どもも、正直、そこまで考えていなかったというところ

もありますが、仰られたことはもっともだと思いますので、その辺も、今後の、来年とか再来年、この展示は続けていこうと思っていますので、その辺のところを検討して、来年以降につなげていきたいと思っています。

○ 木原委員

収蔵されている物はもっといろいろあると思うので、もったいないな、と思って。

○ 日塔議長

民俗関係の学芸員は、いらっしゃいましたか。

○ 郷土資料館長

いないんですよ。歴史関係と民俗関係ということで、要望はしております。今、人事の方でも、文化関係ということに、すごく重点を置いて考えてくれているようなところがありますので、民俗関係の学芸員ということについても、ちょっと期待できるところまで来ているのかなと思っています。ただ、それが、すぐ4月から採用になるかということ、それは、こちらでは何とも言えないのですけれど、今、そういう機運になっているということは言えると思いますので、その辺は期待しています。

先程、木原先生が仰ったように、資料としては、数的にもあると思いますが、それを整理・活用できる人材が、今いないというところが弱みではあるので、引き続き要望はしていきたいと思っています。

○ 日塔議長

正式に学芸員を採用しようと思うと難しいと思いますが、こういう企画展を行うときに、ボランティアのような形で知恵を拝借できるというシステムができれば、それほど予算を使わなくても、かなり専門的な内容で展示ができるのではないかと思います。

○ 郷土資料館長

急にということは難しいと思いますが、来年度に向けて、この企画展をするので、その時に指導を受けるということが認められれば、可能かと思います。短期間のための募集となると、その時に手をあげてくれるという人がいるかどうかということ、なかなか難しい状況ではあります。そういう条件を整えばということですが。

もし、そのようなボランティアの団体があれば、事前に協議しながらということになるかと思います。お力を貸していただけるということであれば、それは可能かと思います。

○ 日塔議長

それは考慮していただきたいと思います。その他にございませんでしょうか。

○ 中田委員

郷土資料館の下総中山駅の館外展示についてですが、せっかくライトが入るようになっていのに、点いていないですね。前の館長にもお願いして、点けるようにしますということでしたが、ライトが点いているのと点いていないのでは違いますので、節約ということであれば、土日だけでも点けていただくと良いのではないかな、と思います。

○ 郷土資料館長

わかりました。公民館側に確認してみます。先日、中田委員とお会いした時にその話もあったので、その時に公民館側に確認したところ、用意はあるようなことだったので、その後点いたのかと思っていました。確認いたします。

○ 日塔議長

他にございましたら、お願いいたします。ないようでしたら、次に進ませていただきます。議題2。郷土資料館、飛ノ台史跡公園博物館事業計画について、お願いいたします。

○ 郷土資料館長

事業報告に続きまして、休館中ということで、簡単になってしまいますが、展示に関しては、今年度の事業報告と同じような内容で変わりありません。教育普及活動としましては、この時期、学校への移動博物館があります。終わったものも含みますが、今年は10校ほど、出かけることになっております。例年、「くらしの道具」に関する実施になりますので、どうしても学校のカリキュラム上、この時期になってしまうのですが、来年はちょうどリニューアルオープンを予定している時期と重なってしまいますので、来年度、また来年度以降の実施については、このことも含めまして今後の検討が必要になると考えております。

今年度、3月までの事業については、主なものは以上です。

○ 飛ノ台史跡公園博物館長

飛ノ台史跡公園博物館の今年度の事業について、説明させていただきます。

1の展示事業。常設展は、今までどおり展示させていただきます。

企画展は、今月12日まで、「くらしの道具」展を開催いたします。お手元の方にチラシを配らせていただきました当館と海神中学校の合同展「日本の美を今に活かした作品展」を、2月26日日曜日から3月19日日曜日まで開催させていただきます。

例年どおり、1年生は、焼き物の器。2年生は、型染の布。3年生は、拓本を活用した立体造形、ボックスアートを展示いたします。期間中、海神中学校の美術部員による展示解説もごございますので、お時間がありましたらご覧いただければと思っております。

次に教育普及活動ですけれども、土・日を中心に、有料・無料のワークショップを実施させていただきます。春休み期間もごございますので、その間は、毎日、開催する予定です。職員が知恵を出し合って、いろいろなワークショップを考えてくれているので、今後とも新しいものを提供していきたいと考えております。以上でございます。

○ 日塔議長

今日は2月も10日過ぎておりますので、今年度は1か月ちょっととなりますので、従来通りということになると思いますが、ご質問等をお願いいたします。

○ 日塔議長

私からよろしいでしょうか。移動博物館について、来年度、再来年度の実施について、どのように実施したらよいか、ご意見をいただきたいと思います。現在、どのように行っているのでしょうか。

○ 郷土資料館長

学校に出向く際には、職員が担当の先生と十分な打ち合わせを行ってから出かけるようにしております。

○ 郷土資料館副主査

こちらから、資料をお持ちして、体育館などに生活の場面・場面と時代に分けて並べて展示を行い、解説をしたり、触ってみたりしてもらいます。100名を超えるような学校だと、2班に分けて行いますが、ゆっくり触ってもらう時間がとれないこともあります。すりこ木とすり鉢でゴマを搗ったり、綿繰り機で綿と種を分けたり、石臼で大豆を粉にしたりという体験をさせていますが、全員が体験できないこともあります。

○ 木原委員

博物館に展示するのはいいとして、移動博物館で学校に資料を持ち込んで短い時間にやるとなると、工夫が必要ですね。移動博物館で、学校で見たものを、博物館に来て、さらに勉強を深めるということの良いのではないのでしょうか。

○ 郷土資料館長

学校の移動博物館で見たものを、郷土資料館や飛ノ台史跡公園博物館での「くらしの道具」展に、おじいちゃん、おばあちゃんが、お孫さんと一緒に来て、道具の使い方を教えたり、昔の話をしたり、世代間の交流も生まれますので、理想的かと思います。ただ、資料を持ち出しての展示となりますとなかなか難しいところもございます。

○ 日塔議長

移動博物館については、今後もやり方について、考えていく必要がありますね。それでは、次に4月以降の来年度の事業計画について、お願いいたします。

○ 郷土資料館長

資料にはございませんが、来年度予算になりますので、もちろん3月の議会で予算の承認を経ないとはいっきりとは申し上げられないのですが、郷土資料館は、平成30年、来年の1

月にオープンという予定でおります。それまでは休館ということになります。

来年度が船橋市の市制80周年ということで、各課で記念行事を行う予定です。市の方から、80周年記念ということで承認を受けているのは、郷土資料館では、80年を振り返る写真展となります。80周年記念の年度としては2か月程度しかないので、その写真展を最初に飛ノ台の1階ギャラリーの空いている6月に、飛ノ台で実施いたします。オープンした時には、郷土資料館の方に持って帰って行おうと考えています。

また、80周年という冠はつかないのですが、市民参加型の展示ということを考えております。市民にアンケートであるとか聞き取りとかを行って、自分の中の船橋の歴史というものはこういうものだよということをいただき、それを集計して、その結果によってどのようなものを展示するかということを考えております。郷土資料館としては、1番の大きなイベントというのがリニューアルオープンということで、この写真展と市民参加型展示を2つの大きな企画展として考えております。

リニューアルオープンの記念講演は、2本ほど予定しております。1つは、テレビの歴史クイズ番組によく出られている河合敦さんによる子供さんでも楽しめる内容でお願いしようと考えています。もう1つは、大人向けに大学の先生の講演でということで、合計2本を考えております。すべて、予算通ったらという条件付きですけれども、大きな事業としては、そのように考えております。

○ 日塔議長

それでは、飛ノ台史跡公園博物館をお願いします。

○ 飛ノ台史跡公園博物館長

小川館長が申しました写真展が1つ6月に増えて、あとは、縄文コンテンポラリー展以下は例年通りの形で実施したいと考えております。講演会につきましても、例年通り、縄文大学と考古学講座を予算が通れば実施する方向で考えております。

○ 日塔議長

郷土資料館の方は、市制80周年でいろいろと忙しいようですが、只今の説明に対して、ご質問はありませんか。

○ 岡崎委員

郷土資料館のリニューアルの展示について、以前に紙に書いたものを見せていただいたのですが、その後、展示リニューアルはどのようになりましたか。この協議会と文化財審議会には、いろいろな人がいるので、それに対して意見を述べる会とも思っておりますので、郷土資料館の話を知りたいと思います。

○ 日塔議長

それでは、郷土資料館のリニューアルに移ってよろしいでしょうか。郷土資料館長、お願

いたします。

○ 郷土資料館長

リニューアル関係の方で説明をいたします。10月のこちらの協議会の場で、リニューアルオープンの概要については、次回の協議会の場でお示しできると申し上げました。12月の議会で、取り外した屋根の設置と追加の耐震工事が必要となってしまいまして、その工事の予算が、28年度・29年度2か年の継続費として承認されました。それによって、工事関係については、競争入札が終わりまして、契約が完了して、間もなく施工業者の方から、工程表が出される手筈になっています。完了の時期としましては、29年の10月に工事が完了します。中身に関しましては、展示関係の委託につきましては、追加工事が生じたことから、今年度中の委託業務が完了することが無理であることがはっきりしましたので、同じく12月の議会で繰越明許費として、来年度に繰越すことの承認をいただいております。

もともと、郷土資料館、飛ノ台、文化課の学芸員の方で、ある程度、案を決めておき、それに対して、大手の展示業者の指名競争入札で行こうと考えておりました。そういったこともあって、前回、予算が通ればすぐに契約になると思っており、こういうものになるということでお示しいたしました。お手元の方にプロポーザルの仕様書と工程・日程を配らせていただきました。契約に関しまして、よりよい展示ができるということを期待して、金額だけの競争ではなくて、公募型のプロポーザルを実施するということに、急遽そちらの方に方向転換いたしました。お手元にお配りしたものが、契約までのスケジュールの日程となります。現在、業者さんからの提案書というものが締め切られて、昨日、第1次の書類審査を行いました。次の段階としては、プレゼンテーションを行う第2次審査を行いまして、評価委員会の審査を受けて、受託者を決定し、3月に契約するということを目指しております。リニューアル後の展示内容については、まだ、受託者の決定がされていないために、まだ皆さんにこういった形になりますよとお示しできない段階です。3月の契約が終われば、図面関係も含めまして、完成のイメージ図もありますので、詳しい報告ができるはずですが、リニューアルオープンは、先程お話ししましたとおり、平成30年1月ということで準備をする予定です。今日の段階ではお示しできなかったのですが、契約等が終われば協議会の皆様にも見ていただくことができます。今日のところは、お示しできない状態です。

○ 岡崎委員

契約が済んだ後に、図面はできているのだね。

○ 郷土資料館長

細かいところは、やりながらになると思いますが。コンセプトに沿った形で、こういうものに作り上げていきますよ、ということで提案書が出てきますので、図面等もその時は完成しているはずですが。

○ 岡崎委員

それで決定ですか。

○ 郷土資料館長

基本的には、それで決定です。

○ 岡崎委員

私が提案するようなことは、残念ながらできないということですね。

○ 郷土資料館長

大きな変更はできません。

○ 岡崎委員

大きな変更ではなくて、協議会には、専門の方がたくさんいらっしゃるのですから、若干の意見を参考として反映していただくことはできますか。

○ 郷土資料館長

できることに関しては、できるということです。基本的には、コンセプト、素案を作りまして、こういうものを考えて作ってくださいよということでやっておりますので。

○ 日塔議長

提案型のプロポーザルですよ。提案した人が、かなり自由に内容を決められる。それでも、仕様にあるような、これを入れて下さいということですよ。基本的なことは館が決められているわけですよ。

○ 郷土資料館長

そうです。それをどのように展示するかを、考えて下さいということです。

○ 日塔議長

そういうプロポーザルですね。契約するまでは、内容については、公開できないということですね。

○ 郷土資料館長

契約するまでは、その内容を評価委員の方以外には、お示しできません。

○ 日塔議長

契約する時点で、中をどのように配置するかとか、どういう設備にするかということは決まっているわけですね。

○ 郷土資料館長

提案として出ているということです。提案として、ここはこういう展示をして、こういう見せ方をして、ということはでているわけです。ただ最終的に、その案が採用されたとしても、大きな変更はできませんが、そこからまた変更があった場合、それについての協議をしてやっていくということになります。

○ 岡崎委員

その提案書を見せていただいて、その感想を言わせていただければ、お役に立てるのではないかと。この会や文化財審議会があるのですから。文化財審議会では、資料について、必ず、レポートのようなものを書きますので。

○ 郷土資料館長

わかりました。契約の性質上、今の段階ではお示しすることができないので、ご理解いただきたいと思います。次回の時には、必ずお示いたします。

○ 日塔議長

では、次回、提案内容を公開していただいて、アンケートなり、感想をいただくということで。次回、そういったことに考慮していただくよう、お願いいたします。

○ 郷土資料館長

工事が終わるのが10月の予定で、オープンが1月なので、疑問を持たれることもあるかと思えます。今の資料館の工事は、当初は、物を全部出さなくていいよ、一部残しておいていいよということでしたが、屋根を取り外すということが後から決まり、今、中は空っぽの状態です。すべてを出したものですから、それをまたすべて戻すということと、今回の委託の展示用の製作物の中に入れるという準備があり、10月に工事が終わり、1月にオープンもかなり厳しい状況ですが、それでも1月中にはオープンしたい、と考えています。その辺の期間的なこともご理解いただきたいと思えます。

○ 日塔議長

追加工事で、かなり工事範囲が広がったから、こちら（飛ノ台史跡公園博物館）に来ることになったのですよね。

○ 郷土資料館長

事務所も向こうにいる予定でしたが。急遽こちらに。

○ 日塔議長

他に、どなたかありませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、ちょっととんでしまいましたが、3番目の平成29年度の開催日程について。

○ 郷土資料館長補佐

お手元の資料で、平成29年度博物館協議会（案）をご覧ください。

こちらの方は、かなり流動的な日程ですが、このように予定しております。もし、変更する場合は、早めにご連絡いたします。

○ 郷土資料館長

工事からオープンまでの日程が非常にタイトなものですから、何とも言えないのですが、皆様の日程と工事関係の日程があれば、オープン前に1回見ていただければというふうには考えております。今の段階では、明確にできますとは申し上げられない状況です。一応、そういう考えは持っております。

○ 日塔議長

郷土資料館から出された日程は、流動的なものであるということですが、委員の皆様方はどうぞ予定に入れておいて下さい。3番目はこれで終わりにしたいと思います。

○ 郷土資料館長補佐

郷土資料館の資料に、各事業の参加者への配布資料とアンケートをつけさせていただいております。アンケートの結果を出してみると、改善すべき点が見えてきて、博物館の運営において、市民の皆様がどのようなことを期待されているのかな、ということもわかってきます。今後もアンケートは続けていきたい、と考えております。

別に、読売新聞の記事をつけさせていただいております。これは、先程紹介した学芸員の小田が船橋市内在住の農家で保管されていた文書を調べて差し上げたところ、いろいろなことがわかってきたということが記事になったものです。新しく学芸員が増えて、今まで問い合わせにお答えできなかったことが、できるようになりました。

○ 岡崎委員

これだけ大きな市で民俗学芸員のプロパーがないというのは、ちょっとどうかなと思います。もしできましたら郷土資料館の方へ、配置していただけたら大変ありがたいな、と思います。

○ 郷土資料館長

引き続き努力して参ります。

○ 日塔議長

ほかに、「その他」でございませんでしょうか。

○ 中田委員

2点ほどございまして、まず、前回10月に埋蔵文化財調査事務所の見学をさせていただ

きましたけれども、アンケートにも書いたのですが、かなり、埋蔵物などの資料が部屋の中に多くあり、もし大きな地震でも来た場合、避難ができないじゃないかと感じました。もう少し何とか広い場所を借りるとか、具体的にどうすれば良いのかわからないのですが、あれだけの場所であれだけの物を処理しているというのは、かなり危険を感じましたね。

○ 郷土資料館長

発掘調査の出土遺物はどんどん出てきまして、減ることはないので、広い場所というものが必要になって、それに対して、今、提言いただいたことに、どうするかというお答えはできないのですが、懸案事項として、私どもも出土した資料の置き場所が課題であるということは認識しております。それに対して広い場所というのが必要になってきますので、それをすぐにどうにかできるとは思えませんが、それについては、私を含めて担当課の方でも、認識しております。現状としては、遺物を収蔵できる建物がないので、複数の学校の空き教室ですとか、そういったところを使わせていただいております。ただバラバラに収蔵されているのは、私どもも使い勝手が悪い状況です。できれば、広くて、遺物を管理できる場所を求めていきたいということは考えております。こうしていきたい、こうしていきたいとしか、本日は申し上げられない状況ですが。そういった意識というのは、持っておりますので。そういったことができるように努力していきます。

○ 中田委員

保管している場所も、見せていただけると。そちらの方も心配ですね。どういう状態で保管されているのかと。それが1点ですね。あと、別件ですが、吉澤野球博物館から寄贈されたものについて、展示については西図書館で、という資料をいただいたのですが、4月からの新しくなる常設展示についてはどうですか。

○ 文化課長補佐

文化課です。4月22日に総合体育館・アリーナにおいて展示公開予定で、工事等を進めている状況です。4月オープンにつきましては、広報等で大々的にお知らせする予定です。

○ 中田委員

もう1点です。取掛西貝塚についてですが、これは、非常に貴重な遺跡であるということで、説明書をいただきました。その説明書を見ると、平成20年6月2日から7月30日に発掘調査を行っているとあり、現在、それについて、報告書をまとめていると書いてありますが、平成20年からだと10年近くたっているわけですね。その辺が文面からだけでは、判断しづらいわけですね。まだ調査やっているのですかね。これは、国の史跡として申請することも考えの中に入っている、と議会での質問に答えられたのに、そう書いてある。そうすると、国の史跡に認定されるのはいつ頃になるのかなと。そういった面ですが、かなり先になってしまうのではないのですか。調査自体は終わっていると書いてありますが、報告書の刊行はどうなっているのか、そこらへんを説明して下さい。

○ 文化課長補佐

調査自体ですが、あそこ（飛ノ台史跡公園博物館の3階展示室）に貝層の剥ぎ取りの展示をしてありますが、平成20年に発掘調査をした地点のものです。平成20年までに5回発掘調査を実施しております。貝層の剥ぎ取りをした地点は、第5次調査地点になります。少し詳しく申し上げますと、第1次から4次までの調査によって、縄文時代前期、今から約6000年前の集落跡、貝塚があるとわかってきました。第5次調査地点で、かなり古くなりまして、約1万年前、縄文早期前半、ヤマトシジミを中心とした貝塚、その当時の竪穴住居跡など、大変古いムラの跡が発見されまして、取掛西貝塚というのは、縄文時代前期だけではなくて、早期の古い貝塚・集落跡だということが、判明いたしました。

発掘調査報告書ですが、5次調査の発掘調査自体は平成20年に終了しており、只今、発掘調査の報告書を作成しておりますが、2冊予定しております。そのうち、1冊は、もう発行されております。それは「遺構編」と言いまして、竪穴住居跡など、地面に残された遺跡の跡を中心とした、発掘調査の報告書です。今作成中のものは、鋭意作業中のものですが、「遺物編」で、土器であったり、石器であったり、貝塚も調査しておりますので、大量の貝類、動物の骨、魚の骨などが大量に含まれておりまして、そういうものを自然遺物と呼んでおりますが、その整理作業を進めております。実は、あぁいった貝層を5ミリや2ミリの篩（ふるい）で何回も篩いますと、大変細かい魚の骨や動物の骨が見つかります。それ以外にも、ツノガイという管状の貝を2ミリぐらいに刻んだビーズが2000点以上発見されております。それはなかなか肉眼では探せないのので、発掘現場から貝層を土ごと持って帰りまして、もう1回篩い直して、1つ1つ選り分けていきます。大変細かい作業を、今、やっております。ということで、考古学的な分析に加えて、そういう自然科学的な分析も専門の先生方お願いしまして、進めているところです。あとは人骨、埋葬されたヒトも見つかっておりますので、そういった人類学的な分野の分析も進めております。時間はかかっておりますが、近々、報告書も完成する予定です。ご存知のとおり、民間の開発行為に関わる発掘調査も大変に多く、そういう発掘調査し、整理作業も進めながら、取掛西貝塚のように、学術的な整理作業・分析も進めているものですから、少し時間がかかっておりますが、大変丁寧にやっておりますので、近々、そういった成果も皆さんにご覧に入れる、そういった状況です。

発掘調査は現在行っておりませんが、取掛西貝塚自体は、全体の広さが約7万6千平方メートルあり、大変広いです。東京ドーム2個分に近いような、広さがあります。幸いなことに、畑として残っている部分が、約5万平方メートルあります。その部分を対象として、今年の4月から、約3か年の予定で、確認調査を実施して参ります。1年のうち3～4か月ぐらいかけて、3か年の計画です。約5万平方メートルを分割して、実施します。大変価値のある遺跡だということは、文化庁、県文化財課も認めて下さっていて、ご指導を仰ぎながら、この4月から確認調査に着手します。可能であれば、国指定史跡の方向性を目指せるかどうかということ、調査の成果をみながら進めていく予定です。以上です。

○ 中田委員

わかりました。

○ 岡崎委員

以前に『船橋市史』を出したのですが、その段階で、船橋の地形、地質、地理の分野を出していなかったのです。私の後輩が、それをまとめておりました、それを発表したいと申しまして、5月を目標としております。

国指定を目指すのであれば、報告書があることが必要となりますが、あの埋蔵文化財調査事務所の狭い建物の中で、海老ヶ作貝塚とか他の遺跡の整理がたくさんある中で、職員はやっているのですよ。何回も見せていただいておりますが。

○ 日塔議長

他に皆さんから、何かございますか。無ければ、最後に何か、事務局側から何かありますか。

○ 郷土資料館長

中田委員からも視察のお話がでましたが、今後も機会を見つけまして、他の場所も見えていただければと思っております。

○ 郷土資料館長補佐

次回、平成29年度第1回の日程は、5月12日、飛ノ台史跡公園博物館ということでお願いいたします。正式な開催のお知らせは、後日、お送りいたします。

○ 日塔議長

他に無ければ、平成28年度第4回博物館協議会を終了させていただきます。

○ 全員

ありがとうございました。